

広報 いまり

昭和29年8月19日
第3種郵便物認可

毎月1日発行 定価1部20円 昭和54年2月1日 伊万里市役所総務部秘書課発行 No.300

祝 54 年 伊万里市成人式

ご成人

主催
伊



今年、936名の方が晴れやかに
成人式を迎え、社会人としての新
しいスタートをしました。

「若人よ、はばだけ20歳の空へ」

54

2月

市内の電話ダイヤル化100%に

南波多局の自動化で



▲沓岐の友人と開局記念通話をする前田スズさん（南波多町）

南波多局番4局に

磁石式交換台で通話していた南波多町の電話が、1月17日からダイヤル式に切り替えられました。

いまや電話は、生活の中で欠くことのできないものとなっており、「ダイヤルすると、すぐ話せる電話」、「全国どこでもすぐつながる電話」にと、電々公社でダイヤル化が進められてきたものです。

市内では、昭和36年度に伊万里局が自動化になってから、昭和47年度に楠久、久原、浦之崎局が自動化になるまで久しくか

かりましたが、その後、黒川、波多津、大川野、松浦局が相次いで自動化になり、今年1月17日に、市内でただ一つ市外局番を利用していた、南波多局の自

磁石式電話交換機などを寄贈

市歴史民俗資料館や学校に

46年間続いた南波多町の磁石式交換台による電話が、1月17日からのダイヤル式切り替えて役目を終えましたので、歴史資料として、電々公社から電話交換機1台と電話機1台が、市歴史民俗資料館に、南波多小、波多川小、南波多中学校にそれぞれ電話機が寄贈されることにな

動化で市内全域がダイヤル化となりました。

南波多局は、同郵便局で電話交換を始めたのが、昭和8年6月からで、今回の自動化になるまで、一般加入電話165台と農村地域集団電話613台の交換をしていました。

これまで電話の大半を占めていた農村地域集団電話も、すべて一般電話に統一されました。

1月17日からは、従来の市外局番が、市内局番4局に変わりましたので、電話をかけるときは、新電話帳で確かめてからかけてください。



▲寄贈される電話交換機

りました。

不況打開の手だてとすると共に臨時の就業の場を拡大し、併せて生活環境の整備充実を努めたい。

政府予算に見られる通り不況の場合特に投資的経費に力を入れて消費的経費は出来る限り節減することが大切であるが、地方自治体は住民直結の行政であるので、どうしても節減のやれない部門もある。

例えば、市民病院、急患センター、保育園などの福祉施設や、下水処理など環境衛生施設はむしろ時代と共に拡充されねばならない福祉ではこれまでの行政の側の過剰サービスが見直されて、地域社会におけるお互いの問題として扶け合い、奉仕し合うボランティア活動が推進され、今年はお互いに善意を出し合う善意銀行を設立したいと思う

先般、名村団地の「すみれ会」のボランティア活動に感動して、主婦の方から寄付があったが、これから世にかくれた善行をどんどん顕彰して、世の中に善行の連鎖反応を起し、悪意を少しでも伊万里市から駆逐しなければならぬ。

明日へはばたく20歳

今年、成人式を迎えた各町代表32名によって、「市長を囲む新成人のつどい」が1月9日に開かれました。

この中から、明日へ向ってはばたく、20歳の働く若者3名の姿を追い、将来の展望を語ってもらいました。

日本一の農園づくりを 川崎 弘さん(松浦町)

川崎さんは、九州一を誇る松浦町の大型梨団地「伊万里新幸農園」で働いています。この農園(37ha)は、29名の共同経営で、川崎さんも経営者の一人として参加しており、無袋栽培方式の近代的農園を、将来は60haにまで拡張し、品質や出荷、販売網にいたるまで完備した日本一の農園にしたいと、張り切って働いていました。



とされているが、自分はせめて言動に責任のもてる人間になり、社会的に一人前と認められるよう、職場でもがんばっていますと語ってくれました。彼女は、佐賀国体ではアナウンサーとして活躍し、今でも、体育祭や野球大会などで、美声を社会に役立ててくれています。

言動に責任をもって仕事を 中島深雪さん(立花町)

中島さんは、西松浦通運久原営業所に勤めており、職場ではみんなから「みゆきちゃん」と呼ばれ可愛がられています。

中島さんは、若者は三無主義(無責任、無関心、無感情)だ

になってやろうとがんばっているとのこと。今は勉強しなければならぬ事がたくさんあり、毎日、汗と油に汚れていますが、自分の仕事に自信と誇りを持っているので、毎日がとても楽しいと語ってくれました。



伊万里一の塗装マンに

多久島勝彦さん(東山代町)

多久島さんは、二里町の藤自動車整備工場で働いています。

この仕事は、自分で選び、好きで飛びこんだ道ですから、やるからには伊万里一の塗装マン

政府予算の編成が、大平内閣の誕生で年を越したので、今年は一月初四日から予算獲得運動が展開された。伊万里市の分については郷土出身の国会議員のお骨折りで各省所管の事業費もつき、特に目玉であった中規模保養基地や伝統産業会館建設費、並びに港湾関係合同庁舎の調査工事費などが軒並みに復活された。勿論、各省所管の事業費についてはこれから個所付けが行われるので、さらに頑張らねばならないが、今年の市政についても一応順調に進展する国の予算の見通しはついたことになる。ただ、これから県、市の予算編成作業が行われるので、全体の予算はその結果を俟たねばならない。しかし、公共事業をとっても特定不況関連だけで昨年の倍額は見込まれるので、こういう制度を活用して、



あなたと
考える

ふるさと運動



見直そうふるさとを 広まるふれあいの輪

現代は、マイホーム主義の時代といわれ、生活様式の都市化核家族化などによって、地域社会は著しく変わってきており、住民相互の結びつきも、また、薄くなってきています。

このような現代社会で、うるおいのある、豊かな住みよい町づくりを推進するには、単に道路、下水道、学校などの公共施設を整備するにとどまらず、地域住民相互の信頼と連帯感によるコミュニティ（近隣社会）の育成が必要です。

この活動として、今、ふるさと運動が各地で推進され、その輪が大きく広がっています。

地域での伝統の継承や、清掃活動、あいさつ、親切運動などの生活づくり実践活動を通して地域住民のふれあいが始まり、つながりが深められています。

ふるさと運動は、次代を担う

青少年に、ふるさとの良さを見直してもらい、地域の一員として、自覚をもって育ててほしいとの願いから、昭和51年から展開されており、3年目を迎えています、その輪は心の交流とともに広がり、地域社会の中に根づいています。

多彩なふるさと運動

モデル町指定などで

市は、青少年が積極的に参加する地域活動の場をできるだけ多く与え、学習活動や実践活動を通して、地域社会の形成者としての役割と自覚を高め、さらには、コミュニティ意識の浸透をはかるため、多彩なふるさと運動の事業を実施しています。

特に、活発化に努めるために県事業とタイアップして、モデル町を定め推進に取り組んでおり、今年で3年目を迎えて、そ

ふるさと運動とは

次代を担う青少年を、地域社会の形成者として正しく位置づけ、郷土愛の心情や社会性、市民能力の啓発をはかるために、次の活動をしています。

- ▶ 伝統の継承、発展の活動
 - わらべ歌、民話、伝統の学習
 - 郷土芸能、工芸などの伝承
 - 郷土の自然、歴史の学習
- ▶ 豊かな生活環境づくり活動
 - 花や木を植える活動
 - 自然愛護の活動
 - 公園、道路、河川の美化活動
- ▶ 明るい生活づくり活動
 - 敬老、あいさつ、親切などの地域連帯を高める実践活動
 - 野外活動、体育、レクリエーションで地域ぐるみ健康活動
 - 文化祭、民俗行事による人の和づくり活動など。

の成果も表われてきました。

モデル町とその主な取り組みは次のとおりです。

▶ ふるさと運動モデル町

- 波多津町 生活環境づくり（清掃、美化活動の実践）
- 南波多町 伝統の継承、発展（浮立などの伝統の継承）
- 松浦町 民俗、生活づくり（あいさつ、民俗行事など）
- 東山代町 伝統の継承、発展（大念仏などの伝統の継承）

とり戻そう心の交流

鬼火たきで無病息災を

1月7日は、門松や松飾りを取り除き、鬼火たきが各地で催されます。

子供たちは、前日から川土手付近などの適当な場所に青ささのついた生竹や生木を切り寄せたものを高く組み立て、夜明けに火をつけます。

生竹がはじけ「パンパン」とはげしい音響を発して燃えあがる赤い火を囲みながら、冬休みの最後を楽しみます。

子供たちは、それぞれの家庭から持ち寄った、もちを残り火で焼いて食べますが、このもちや燃え残りの木を家に持って帰ると、無病息災で過せるとの言

ふるさとの文化を守る

浮立・大念仏

東山代町脇野の大念仏と南波多町府招の浮立は、市内に残る貴重な無形文化財で、県からも指定を受けています。

ふるさとに伝わる文化の保存については、青少年に担ってもらう以外にみちはありません。

脇野の大念仏は、23年ぶりに若い世代に引き継ぎの伝承式が昨年9月にありました。

また、府招の浮立も青少年によって守り伝えられており、フルーツ観光農園開園祭りに披露するなど、地域と密着した活動で文化の保存に努めています。

地域ぐるみのふるさと運動は伝統と後継者を育てています。

い伝えがあります。

黒川町椿原部落では、たんぼに約5mの高さに組まれた生竹や生木の下に、門松、松飾を入れ、鬼火たきが行われました。

鬼火たきには、子供たちだけでなく、大人も参加して仲良くもちを焼いて食べたり、お神酒を飲んでにぎわっていました。

そこには、部落あげてお正月を祝う、ほのぼのとした心の交流があり、温かいふれあいが感じられました。



▲黒川町椿原の鬼火たき



▲わらじの作り方を教わる子供たち
(松浦町)

わら細工の伝承を

松浦町では、郷土に伝わる工芸「わら細工」の知識技能を伝承しようと、青少年がお年寄りから、しめ縄やぞうり、わらじづくりを伝授しました。

同町の子どもクラブリーダー(中学生38人)は、初めてのわら細工に悪戦苦闘していましたが、松尾ヒロさん(80歳)ら18名のお年寄りから手とり足とりの指導で、立派なしめ縄やぞうりができあがり、郷土に伝わる工芸が伝承されました。

子供と大人のふれあい

もぐら打ちでコミュニティ

正月14日には、子供たちは、それぞれに手頃の女竹の先に、ワラ束をかずらでまいたもので部落の初嫁のいる家の外庭を、「バタッ、バタッ」と打ってまわる、もぐら打ちが、いまなお市内各地で行われています。

もぐら打ちには「14日、もぐら打ち、ちょうし(酒)出すかもち出すか、出さねば嫁ごのしり打つぞ」と、もぐら打ちの歌が歌われます。

この行事の起りは、1月15日の満月の日を新年の第1日とし

た、古い暦法による前夜祭の名残りだろうといわれ、子孫の繁栄を願ってされるものです。

初嫁のいる家では、子供たちに、もちやミカン、お菓子などを与えます。

もぐら打ちには、地域の繁栄を願う姿がみられ、そこには、子供と大人のふれあいがありますが、時代とともに数少なくなっており、廃れてきています。失われつつある人々の温かい交流を取り戻すためにも、絶やさず続けてほしいものです。

ありがとう あなたの善意

心あたたまる町の話

手押し車でゴミを集める岡口さん

美化活動に励む 大川町若栄会^{わかえい}

大川町戸石川の岡口鈴枝さん(69歳)は、歩行するときを利用して手押し車に、ゴミ袋(肥料袋)を積み、近所の道に散乱している空カンなどのゴミを拾い集めておられます。

岡口さんは大川町若栄会(栗田スミ子会長=170人)の戸石川支部長をしており、若栄会が環境美化活動に取り組み、道づくりやゴミ集めをしたとき、自分の部落だけでゴミが肥料袋に30袋もあったことから、捨てられたゴミの多いのに驚き、それ以来、道を歩くと空カンなどのゴミが目につき、拾い集めているとのことで「町をきれいにするには、ゴミを拾うことより捨てないことが大切です」と語っていました。

環境美化運動などで地域に貢

献している若栄会は、56歳から70歳までの女性だけでつくられたユニークな会で、婦人会を勇退した人が余暇を社会のためにと、これまでの経験を生かして美化運動を始め明るく、住みよい町づくりに、積極的に活動しており、地域住民から感謝されています。



▲ゴミを拾う岡口鈴枝さん

横断旗を守る山口さん

交通安全を願いきれいに

山代町楠久の山口孝さん(57歳)は、毎朝、登校の子供たちの安全を見守るかたわら、横断旗の洗たくや修理を5年間も続けておられます。

山口さんは、同町の補導員や民生委員、軍人会のお世話をされるかたわら、49年から市交通指導員として、国道204号線沿いの園児や児童生徒の交通安全指導を行うなど地域の奉仕活動を続けておられます。

交通安全指

横断旗がほとんど利用されていないのを見て、「ホコリをかぶっているからでは」と思い、同町国道204号線沿い5か所の横断歩道にある横断旗80本を、洗剤で洗ったり、破れたものはテープで補修し、折れた柄は取り替えるなどの修理をしています。

今では、そのかいあってか、利用率も高まってきているとのこと。

山口さんは、「いたずらで旗の柄を折ったりしたものがあり大事に扱ってほしい。そして、もっと安全横断に利用してもらいたい」と話していました。

今、このような善意が、町のあちこちであっており、その輪が広がってきています。

。ありがとうございました。



▲国道204号線そばで横断旗を洗う山口孝さん



▲成人式 社会への“門出”を祝う成人式が市民会館で開かれました。お祝いに歌う伊万里小コーラス部のみなさん。(1/15)

いま伊万里で



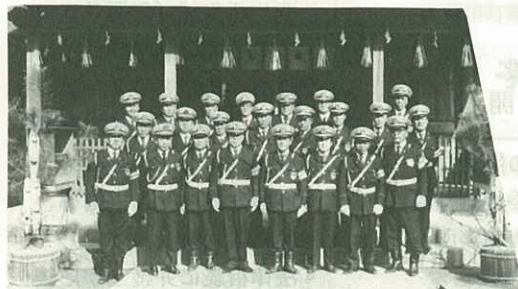
▲休日急患医療センター起工式
3月末完成、5月オープン予定。(1/17)



▲中島杯ロードレース 成人式の記念行事として、約400人が参加し、健脚を競いました。(1/15)



▲消防出初め式 約1,100人が参加
整列した団員を観閲する市長。(1/7)



◀交通安全祈願 交通指導員のみなさんが、伊万里神社で交通安全を願い祈願しました。(1/7)



▲ハーモニカおじさん向陽園など慰問(1/19)



▲伊万里焼新作展示会
“焼き物の里”の新春をかざる新作展示会が市農協会館で開かれました。(1/9~10)

市交通安全母の会が全国表彰

県下では初めて

市交通安全母の会（小杉マツエ会長＝8,000人）は、1月19日、東京で開かれた第19回交通安全国民運動中央大会で、地域の交通安全秩序の確立に貢献したことが認められ全日本交通安全協会会長から表彰を受けました

市交通安全母の会は、市民の交通安全は母親の手でと、市婦人連絡協議会を母体に、昭和46年8月に結成されたもので、特に、子供と老人を交通事故から守ろうと、春・秋の交通安全運動期間には、市内190か所で街頭指導をしたり、年間を通して181支部で交通安全指導の交通安全教室を開くなど、会員だけでなく、地域ぐるみの活動を推進しており、その成果が認められた



▲受賞の喜びを語る小杉さん(左)と松瀬さん(右)

もので、母の会が受賞したのは県下では伊万里が初めてです。

小杉会長は、「これまでの活動が認められ、大変うれしい。これからも、交通安全の弱者となっている、子供や老人を守るためにまず母親が手本となり、交通安全の原点にもどって、交通事故防止に取り組みます」と語っていました。

また、同大会で、伊万里交通安全協会副会長の松瀬勲さんが交通安全功労者銀色緑十字章を受けました。

無料特設 人権相談所開設

人権や相続、家庭の問題などについて、人権擁護委員が相談に応じる無料特設人権相談所を次のとおり開設します。

〔波多津町〕

▲日時 2月21日 10時～15時

▲場所 波多津公民館

▲担当 人権擁護委員

古川美年氏

〔大川町〕

▲日時 2月26日 10時～15時

▲場所 大川公民館

▲担当 人権擁護委員

高添門司氏

市の人口

(54年1月1日現在)

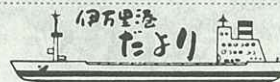
総人口 61,063人 (+58)

男 28,938人 (+34)

女 32,125人 (+24)

世帯数 16,233世帯(+3)

市民課調べ、()は前月比



1月

貿易額は10億4,100万円で、輸入のみ。内訳は南洋材8億4,300万円、米材が1億9,600万、その他船舶用機械類が176万円でした

船舶の入港

日本船8隻、外国船12隻（フィリピン1、パナマ9リベリア2）の計20隻で、前月比3隻の増。

市民相談室のご案内

- ▲消費生活相談（毎週月曜日）
 - ・3階企画課で受け付け
- ▲交通事故相談（第2・第4火曜日）〔県交通事故相談所〕
- ▲内職相談（毎週水曜日）
 - ・内職のあっせん、指導
- ▲法律相談（第3木曜日）
 - ・法律相談に弁護士が応談
- ▲社会保険相談（毎週金曜日）
 - ・社会保険事務所職員が応談
- ▲高齢者職業相談
 - 公共職業安定所の相談員が常駐し随時受け付け
- ▲その他の相談
 - ・人権相談、行政相談など
 - 開催日時は別に連絡
 - ・請願・陳情・苦情などについて受け付け

2月の市民会館行事

- 8日(木) 8時30分～12時
 - ・伊万里商業高校新卒者講習会
- 10日(土) 13時～17時
 - ・母と女教師の会
- 11日(日) 10時～16時
 - ・音楽発表会(声伸会)
- 12日(月) 13時～17時
 - ・マンガ映画
- 27日(火) 13時～22時
 - ・真理ヨシ子・子ども劇場

税金の申告はお早めに

申告受付 市県民税 3月1日～15日
所得稅 2月16日～3月15日

税金の申告時期になりました。申告は住民税や国民健康保険税などの税額を決定するうえで大切なものです。申告もれがないよう注意しましょう。

●市県民税の申告受け付けは、3月1日から3月15日まで行

います。各町での受け付け日程は2月15日号「市役所だより」でお知らせします。

●所得稅の確定申告は、2月16日から3月15日まで伊万里税

務署、税理士会、税務相談所市役所税務課などで受け付け及び相談に応じています。

※期限間近になると大変混雑して、落ちついて相談できなかつたり、長い時間待たなければならぬような事にもなりますので、申告はできるだけ早めに済ませるようにしましょう。

(県営住宅 38戸)
(市営住宅 24戸)

入居者募集

受付期間 2月13日～28日

〔 県 営 住 宅 〕

〔 市 営 住 宅 〕

▲場所 岩栗ヶ丘第2 (弁天町)

▲場所 立花団地

▲種別・構造・募集戸数

▲募集戸数と種別

1種 中層耐火構造 15戸

一般住宅=18戸 (2種)

2種 中層耐火構造 23戸

母子世帯=2戸 (2種)

▲入居予定日 5月1日

老人世帯=2戸 (2種)

▲入居資格

特低家賃住宅=2戸 (2種)

(1)同居、または同居しようとする親族 (内縁、婚約関係を含む) があること。

▲入居予定日 4月5日

▲構造 中層耐火構造4階

3DK

(2)住宅に困っている方

▲入居資格

(3)収入基準に該当していること (扶養親族3人の標準世帯で、1種263万1,999円、2種204万9,999円以下)

○県営住宅入居資格の(1)～(3)に準拠 (ただし、収入基準は(2)種のみ該当)

(4)現在公営住宅入居者のうち、2K、2DK、2LDKに4人以上同居している多家族世帯で3DK、3LKに入居希望の方

○老人世帯向け住宅については世帯主が60歳以上で、配偶者か18歳未満の子供があること

▲申込手続

▲申込手続

入居申込書に次の書類を添えて提出してください。

入居申込書に次の書類を添えて提出してください。

(1)昭和53年中の収入を証する書類 (源泉徴収票か市町村交付の所得証明書) 1通

(1)昭和53年中の源泉徴収票か、市町村交付の所得証明書1通

(2)住民登録簿本1通

(2)住民登録簿本1通

▲申込受付期間

(4)官製ハガキ (住所氏名を記入)

昭和54年2月13日～2月28日

▲申込受付期間

昭和54年2月13日～2月28日

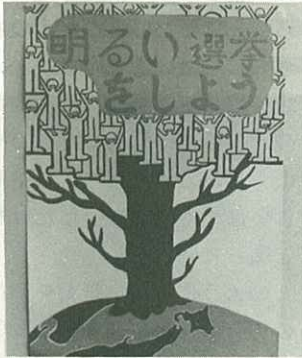
▲申込先 伊万里土木事務所

▲申込先と問い合わせ

市役所建設課建築係 (電話③-2111 内線331)

あなたの一票を

たいせつに



▲県で特選となった池田雅子さん(伊万里中1年)の作品

今年は県知事をはじめ、県議市議の選挙が実施されます。

明るい選挙を展開しましょう

町別飲酒運転検挙者数

(昭54.1.31現在 伊万里警察署調)

町名	1～10月	11月	12月	53年計
伊万里	72	5	1	78
黒川	7	1	0	8
波多津	12	0	0	12
南波多	10	0	2	12
大川	11	0	0	11
松浦	11	0	0	11
二里里	11	1	1	13
東山代	13	1	0	14
山代	8	3	0	11
(県外)	75	4	1	80
計入	230	15	5	250

働きながら学ぶ

定時制高校生徒募集

願書受付 2月13日～15日

中学校卒業後、働きながら学ぶ高校生を募集しています。

▲学校名

- 伊万里商業高等学校
定時制課程（夜間制）
- 伊万里農林高等学校
定時制課程（昼間制）
- 有田工業高等学校
定時制課程（夜間制）

▲募集定員 各学校とも40名

▲願書受付

- 第1次 2月13日～2月15日
- 第2次 3月27日～4月4日

▲学力検査

- 第1次 3月13日
〔国語・理科・英語〕
3月14日
〔社会・英語〕
- 第2次 面接と作文試験を行います。

▲合格発表

第1次 3月19日

住宅金融公庫

個人住宅建設資金融資受付

住宅金融公庫では、一般個人住宅建設資金の受け付けを、次のとおり行います。

▲受付期間

1月29日から2月28日まで

▲融資対象者

- 自分で住むための住宅を新築する方で、土地の準備ができています。
- 同居予定者がある方
- 償還元利金の5倍以上の収入がある方

▲融資対象住宅

住宅部分の床面積が30㎡以上120㎡まで、ただし、60歳以上の方、心身障害者、6人以上の多数家族の場合は150㎡までの住宅

▲融資限度額

木造住宅で最高440万円から360万円まで（老人同居割り増しもあります）

▲利率 年利5.05%

▲返済期間

木造住宅25年以内

耐火構造住宅35年以内

▲返済方法

元利均等毎月払い、または毎月払いとボーナス払いの併用
※詳しくは公庫業務取扱金融機関か住宅金融公庫福岡支所（☎092-712-5555）へ

→ 第2次 4月5日

▲問い合わせ先

- 伊万里商業高校(☎③ 5191)
- 伊万里農林高校(☎③ 4138)
- 有田工校(☎ 09554 ③ 3136)

— 歴史民俗資料館から —

— お知らせ —

歴史民俗資料館は次回の展示品の整理と準備のため2月1日から14日まで休館します。

2月15日からは常設展にもどりますが、展示資料については市民の皆さんのご協力を得て、さらに充実した、見ごたえのあるものにしたいと思います。

古い器具や道具類、民芸的なもの、各種の出土品などをお持ちの方がいましたら、ご寄贈あるいはご寄託していただければと願っています。

このように貴重な資料をお持ちの方は歴史民俗資料館（☎② 7105、市民会館内）へご連絡ください。

通信制高等学校生徒募集

願書受付 3月1日～31日

佐賀北高等学校は通信制で学ぶ生徒を募集しています。

応募資格

- 中学校卒業程度以上の方
- 中学校を卒業していない方や既に高校を卒業した方も勉学することができます。

学習の方法

- 毎月2回、日曜日に佐賀北高か唐津西校で面接指導を受け学習報告課題を作成することにより高校教育を受けます

学費

- 教科書学習書は無償給与
- 入学時に1年分約6,000円納入

願書受付期間

○昭和54年3月1日～3月31日

選抜方法

○書類選考だけで入学試験なし
※入学希望の方は佐賀北高等学校通信制（〒840佐賀市天祐2丁目6番1号 ☎ 0952-23-2203、29-4189）へお問い合わせください。郵送で願書を請求される方は50円切手をはった返信用封筒が必要です。

また、市内に相談員として前川善隆さん（大川内町市村☎③ 3377）がおられ、願書等も留意してあります。

国定資産課税台帳

縦覧期間の変更

税法改正の関係で縦覧期間を変更します

▷期間 4月10日～4月30日

▷場所 市役所税務課

※。国定資産の課税内容について不服のある方は5月10日までにお申し出ください。土地について課税と現況がちがう場合は、税現務課まで申し出てご確認ください。確認のうえ、現況にあった課税をいたします。

次のかたからご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

社会福祉事業費へ

- ◆香典返しを寄付
 - 。前田徳市(黒川町畑川内)
 - 。吉野宣廣(南波多町高瀬)
 - 。吉野宣廣(南波多町高瀬)
 - 。父徳美)
 - 。堀田 強(大川町長野)
 - 。父福義)
 - 。松尾英則(松浦町東分)
 - 。母サヲ)
 - 。松本泰夫(黒川町浦瀨)
 - 。古川シメ(瀬戸町早里)
 - 。父辰次)
 - 。前田良子(山代町東分)
 - 。父三郎)
 - 。前田忠一(二里町内の馬)

場 亡妻サノ)

- 。川原利幸(大坪町屋敷野)
- 。父与市)
- 。津上雪俊(瀬戸町漁港)
- 。父治太郎)
- 。井上純夫(大坪町祇園町)
- 。三男康男)
- 。山口義人(松浦町梅岩)
- 。父卓見)
- 。中島住男(山代町久原三区 亡母エキ)
- 。古川政弘(波多津町井野 亡二男伸一)
- 。小寺善隆(波多津町浦)
- 。父栗原仙之助)
- 。中尾 格(東山代町長浜)
- 。父初次)
- 。大川内米次(下土井町 亡母スエ)
- 。山口幸子(大坪町白野)
- 。夫平八郎・長男長女・二男二女)
- 。石田スジ(東山代町里)
- 。夫豊松)
- 。中村次平(松島町 亡長男松次)
- 。岩永一男(松島町 亡父鋪太郎)
- 。高田俊太郎(松浦町下分 亡母シメ)
- 。田代一茂(立花町東円 亡養母ヤエ)
- 。小旗実雄(黒川町真手野 亡母キク)
- 。吉岡キクノ(二里町大里 亡姉古川トシ)

。植田義昭(東山代町里 亡母ウラ)

- 。浦山光次(東山代町滝川内 亡母トシ)
- 。吉富誠助(仲町 亡母カズ)
- 。光武久太(大川内町大川内山 亡母ヒサ)
- 。川添ナミ(波多津町浦 亡長女カツコ)
- 。城下ツナ(大川町立川 亡夫金四郎)
- ◆篤志寄付
 - 。四千円 牧野敏昭(東京都 伊万里警察署経由)



ありがとう

ございました

上 亡母リハ)

- 。田代一茂(立花町東円 亡養母ヤエ)
- 。斉藤 弘(東山代町滝川内 亡三男三好 滝野小へ)
- 。丸田和子(大坪町白野 亡夫扶士 大坪小児童図書館 充実費に)
- 。瀬戸口ウタ(立町 亡夫市郎 伊万里小校舎建築資金に)
- 。山口幸子(大坪町白野 亡夫平八郎、長男、長女、二男、二女 大坪小児童図書館 充実費に)
- ◆体育振興奨励基金へ
 - 。篤志寄付
 - 。老万円 中島紘一(新天町六五四)
 - 。四千円 川田 宏(二里町川東「健康と体力」寄稿謝金を)

。井本重利(南波多町重橋 亡母ミヨ)

- 。井上四郎(南波多町古川 亡養母シメ)
- 二里町明るい町づくり推進資金へ
 - 。前田忠一(二里町内の馬 亡妻サノの香典返しを)
- 東山代公民館 施設整備資金へ
 - 。田中雷力(東山代町里 亡母キミノの香典返しを)
 - 山代町コミュニティ センターへ
 - 。吉武起美(山代町福川内 亡夫善太郎の香典返しを)
- 大坪公民館 施設整備資金へ
 - 。川原利幸(大坪町屋敷野 亡父与市の香典返しを)
- 市民会館へ
 - ◆篤志寄付
 - 。錦鯉二〇匹 久保田勉(脇田町)
 - 。舞台照明用スポット二基 伊万里市日舞連合会(市文化祭収益金の一部を)

各町公民館へ

- 。淀つじ五十本 大川内一夫(立花町東円 成人式を記念して)
- ボランティアサークルへ
 - 。五千円 匿名(黒川町名村団地「すみれ会」指定)

教育振興奨励基金へ

- ◆香典返しを寄付
 - 。前田茂平(南波多町府招 上 亡母リハ)

(昭54・1・17現在)

こ ども の ペ ー ジ

最優秀賞は田原さん(波多津小)ら6名

冬の青少年育成強調月間ポスター・作文コンクール

昨年の12月16日から今年の1月15日までは、冬の青少年育成強調月間でした。この運動をみんなに知ってもらおうと、ポスターと作文の募集をしたところ、りっぱな作品がたくさん集まりました。

今月は、このコンクールで優秀な成績をおさめた人たちをお知らせします。

〔ポスターの部〕

山口智里(滝野小6年)

▲小学校低学年

最優秀賞 田原美栄(波多津東小2年)

優秀賞 前田芳彦(大坪小2年)

市丸孝行(波多津小1年)

優良賞 堀内伸一(伊万里小3年)

井手量子(波多津小1年)

市丸雅之(波多津東小3年)

▲小学校高学年

最優秀賞 渡辺奈留美(波多津小5年)

優秀賞 黒髪俊広(大川内小6年)

石鉢 勝(東山代小4年)

優良賞 塚本あけみ(波多津小5年)

井川美香(大坪小6年)

▲中学校

最優秀賞 野口直也(国見中3年)

優秀賞 北古賀一暢(伊万里中2年)



▲田原美栄さんの作品

- 草野一孝(国見中3年)
- 優良賞 栗原治夫(波多津中3年)
- 池田竜一(国見中3年)
- 池田雅子(伊万里中1年)

〔作文の部〕

▲小学校低学年

最優秀賞 田中三枝子(波多津小3年)

優秀賞 山口 潤(大川内小1年)

井手潤子(波多津小3年)

優良賞 川久保清貴(山代東小2年)

横川敦子(黒川小3年)

馬場若美(山代東小1年)

▲小学校高学年

最優秀賞 金子志保美(二里小4年)

優秀賞 川上はな子(波多津小5年)

樋口千加子(大川内小5年)

優良賞 岩永正憲(大坪小6年)

山田珠美(二里小4年)

城島貴子(東山代小6年)

▲中学校

最優秀賞 原口浩子(松浦中2年)

優秀賞 長野美鈴(黒川中3年)

小嶋香織(南波多中1年)

優良賞 今里有希(伊万里中3年)

瀬戸光代(南波多中1年)

松尾美和子(伊万里中3年)

小学校高学年の部 最優秀賞



二里小学校四年
金子志保美

家庭の日

たつのもわすれて大はしゃぎし
笑いのうずがまきます。

私の家族は、先生をしている
お父さんとお母さん、六年の美
紀姉さん、私、保育園に行っ
ているふたりの奈留美、奈保美、
十一月の月日の奈美、それにおば
あちゃんの八人家族です。私の
家に来る人はみんな「ほう、五
姉妹、にぎやかでいいですね」
と言います。五人も子どもがい
るので、とても忙しい毎日です
が、お父さんもお母さんも大切
に育ててくれるのをいつもかん
しゃしています。

伊万里市では、毎月第一日曜
日を「家庭の日」と決めてある
とお父さんに聞きました。これ
からは発表会だけでなく、第一
日曜日には登山をしたり、ゆっ
くり話し合いをしたりして、も
っともっと楽しい笑いの消えな
いりっぱな家庭にしていきたい
とねがっています。

十二月三日は、末っ子の奈美
もピアノにあわせて、はい回り
みんな笑いこけました。おちつ
いた姉のピアノ、活発な私のピ
アノ、かわいらしいふた子のお
どりに、三人ともはくしゅをパ
チパチしてくれました。ふだん
む口なお父さんも「志保美うま
いぞ」と目をほそめます。いつ
も忙しそうにばたばたするお母
さんも、この時はどっかりと、
こしをおろし、ゆっくり楽しそ
うにながめます。そばでおばあ
ちゃんが「私は幸せ」と言
います。そんなすがたを見ると、
私は心の中がぱっと明るくなり
ほんとうに楽しくなります。